

令和6年度 校内研修計画

1 研究主題

「学びの質を高める授業づくり」

～生徒指導の4つのポイントを意識した教育活動の実践を通して～

2 研究主題設定の理由

県教育委員会では、令和2年度～6年度を推進期間と位置づけて、「学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」を提案している。学びの質を高める授業改善、新学習指導要領の理念の実現に向けた学校組織改善を柱とし、学びの質を高めることを重点に「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」「組織的な関わり」を取り組みの3つの視点としている。

それを受けて本校では「自己肯定感の高まり」に着目した。自己肯定感とは生徒の学ぶ力を下支えする「学びに向かう力」に大きく関連している。「学びに向かう力」を育むためには、「非認知能力」を伸ばす必要がある。「非認知能力」とは、意欲・自制心・誠実さ・忍耐力・自己肯定感など「自分に関する力」と協調性・共感する力・思いやり・道徳性などの「人と関わる力」のことである。「非認知能力」がその後の「認知能力」の発達を促すことがわかっており、学習指導の土台であると言われている。生徒の学びの質を伸ばすためには、この「非認知能力」を育む必要がある。

本校では、学力向上推進の様々な取り組みや校内研修の成果が実を結び、全国学力学習状況調査や県到達度調査等の各種調査で、県及び市の平均を上回る教科がでてきている。さらに、前年度の6月と12月に実施した「沖縄県児童生徒質問紙調査」の結果においても「自己肯定感の高まり」に関する項目に高い水準が見られる。今後もこれまでの取り組みを継続していきたいと考えている。しかし一方で、日々の授業や諸活動の中で、生徒たちの積極性や自主性に課題がある。

本研究では、日々の教育活動に「学びに向かう力（非認知能力）」が高まるような視点を取り入れるために、先に述べた「学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」の方策1の中で挙げられている生徒指導の4つのポイントである「規範意識を醸成する」「自己決定の場を与える」「自己存在感を育む」「共感的人間関係を育む」を意識することとした。これによって、生徒の自己肯定感、積極性や自主性が高まり、意欲的に活動し、学びの質も高まると考える。

令和6年度は「生徒指導の4つのポイントを意識した教育活動の実践」をサブテーマに掲げ、生徒一人一人の学びの質を高める授業づくりを実践していく。また、教員一人一人の授業力の向上を推進し、より充実した授業作りに取り組むことで、学びの質を高める授業が実現されるよう、これまでの研究の成果や課題を踏まえた上で、本研究をさらに深めていく。

3 研究の仮説

「学びの質を高める授業づくり」を通し、生徒指導の4つのポイントを意識した教育活動の実践を展開することにより、生徒の自己肯定感が高まり、生徒が意欲的に学習活動に取り組むと考える。

4 研究の方針

- (1) 「生徒指導の4つのポイント」を意識した教育活動の実践を組織的に行う。
- (2) 教科会で授業リフレクションを積極的に取り入れ授業改善をすすめる。
- (3) 全職員が教科会と連動した一人一回以上の公開授業の実践に取り組み、他教科の参観も含めできる限り3回以上は参観する。

5 研究の内容

(1) 「生徒指導の4つのポイント」を意識した教育活動の工夫

- ① 講師を招聘し、理論研究などの講義やワークショップを実施する。
- ② 指導主事を招聘して、研究授業及び全体研修会を実施する。
- ③ 「生徒指導の4つのポイント」を学級・学年・学校全体など組織的に実践する。
- ④ 「生徒指導の4つのポイント」を意識した教育活動を実践しての結果を、定期的に生徒アンケートを実施することで取り組みの見直しや改善を行う。
- ⑤ Q-Uテストを活用し、生徒の実態把握及び支援の手立てを組織的に行う。

生徒指導4つのポイント

- ① 自己存在感の感受
児童生徒が「自分も一人の人間として大切にされている」と感じ、自分を肯定的に捉える 自己肯定感や、認められたという自己有用感を育む工夫がある授業。
- ② 共感的人間関係の育成
児童生徒が、互いに認め合い・励まし合い・支え合える学習集団づくりを促進していく授業。
- ③ 自己決定の場を与える
児童生徒に、意見発表の場を提供したり、児童生徒間の対話や議論の機会を設けたりする等して、教員が児童生徒の学びを促進するファシリテーターとしての役割を果たしている授業。
- ④ 安心・安全は風土の醸成
児童生徒が、安全かつ安心して学習できるように配慮され、児童生徒の個性が尊重された授業。

「学びに向かう力」
(非認知能力)を育む

(2) 教科会で授業リフレクションを取り入れた授業改善の推進

- ① 全教科で、授業リフレクションを取り入れ、教科会の充実を図る。
- ② 一人一公開授業の指導案を事前に練り合い、授業後はリフレクションを行う。
- ③ 授業リフレクションで話し合った内容は、リフレクション用紙に記録し掲示する。

〈 リフレクションの流れ 〉

- ・ 授業の概要説明（授業者の説明）
- ・ 授業者から見た成果と課題
- ・ 改善策について
- ・ 「核となる授業」の実施

〈 リフレクションで話し合う主な視点 〉

- ・ 重点とした生徒指導の4つのポイントの確認
- ・ 「めあて」と正対した「まとめ」「ふりかえり」
- ・ 生徒の思考を促す発問
- ・ 思考ツールなどを活用するなど生徒の思考を促す工夫
- ・ 生徒が意見を共有する時間や場面の工夫
- ・ 板書、教材、ICT機器などの活用 など

(3) 一人一公開授業の実施

- ①教科会と連動した一人1回以上の公開授業を行う。(12月末までに実施)
(特別活動, 道徳, 教科のうちいずれかひとつを選んで実施)
- ②教科会や担任会等の時間を活用して, 事前に指導案を練り合う。
- ③同教科の職員が参観できるよう, 教科会の時間等に公開授業を実施する。
- ④教科会で, 全員の「公開授業実施日」と「写真撮影係」を決定する。
→校内研修担当でとりまとめ, 公開授業実施計画表を作成する。
- ⑤校内研修主題や研修内容を意識した授業作りに努める。
- ⑥下記の「授業改善のための共通実践事項」を指導略案に記載し, 確実に実践する。

授業改善のための共通実践事項

- ア 「めあて」と正対した「まとめ」「振り返り」の実践
- イ 生徒の思考を促す発問の工夫
- ウ グループやペアでの練りあい等、生徒が考えや意見を共有する時間や場面の工夫
- エ 週案等に本時が生徒指導の4つのどのポイントを意識した授業かを記入

令和5年度の成果と課題

- ①南城市めぐりがとても楽しく勉強になりました。
- ②評価・評定についての校内研が必要だと感じた。「ワークを提出したから主体的に学ぶがA」と生徒が話していることが気になった。定期テストがなくなり、評定がどうなっていくのか学習したい。
- ③校内件の校外研修とても良かったです。また次年度もお願いします。
- ④生徒による傷害事件発生時の対応の研修が必要
- ⑤支援を要する生徒が増えているため、全職員で支援教育の理解が必要だと思います。

6 校内研修の年間計画（令和6年度） ※月日変更します。

月	日	曜	研修内容	備考
4	3	水	【第1回校内研修】 （春季休業中） ○全体研修会 「特別支援を要する生徒への支援の工夫」 「Foresight20234の効果的な活用方法について」 「生徒指導4つのポイントを意識した授業・学級作り」 「避難時避難場所の確認」	・避難訓練昼休憩時間を利用して 学年単位で避難場所を確認
5	10	金	【第2回校内研修】 ○全体研修会 「評価について」	
8			南城市職員研修会	・詳細未定
8	26	月	【第3回校内研修】 （夏季休業中） ○全体研修会（午前） 「救急救命法※エピペンの使い方も含む」 ※エピペン等必要な生徒の入学予定があれば 春休み中に実施もあります。	・講師招聘予定
8	26	月	【第4回校内研修】 午後 「不審者対応について」	・講師招聘予定
8	27	火	【第5回校内研修】 （夏季休業中） ○全体研修会（午前） 「QUテストを活用した学級経営の工夫について」 ※読み取りだけでなく、その対処法まで	
8	27	火	【第6回校内研修】 （夏季休業中） ○全体研修会（午後） 「施設見学」or「地域巡り」	
10			【指導主事招聘研究授業及び授業研究会】 「生徒指導の4つのポイントを生かした授業づくり」	・日時未定
1	6	月	【第7回校内研修】 （冬季休業中） ○全体研修会 「本年度の取り組みの反省（成果と課題）」	

一人一公開3参観授業の進め方

1. 一人一公開授業の計画について

- (1) 教科会や担任会等と連動した一人1回以上の公開授業（教科、道徳、特別活動のいずれかひとつ）を12月末までに実施する。
- (2) 同教科の職員が参観できるよう、なるべく教科会の時間に公開授業を実施する。
- (3) 各教科会で、全員の「公開授業実施日」と「写真撮影係」を決定する。
→校内研修担当でとりまとめ、公開授業実施計画表を作成する。
※計画した日に実施できない場合は、事前に校内研修担当に伝える。

2. 公開授業実施までの準備（授業者）

- (1) 遅くとも授業の1週間前までには校内研修及び教務へ授業日程の連絡を入れる。
- (2) 授業プランシートを作成し、各自で印刷し、当日朝までに全教員に配布する。
- (3) 授業プランシートのデータは各自で保存する。（ひな形データあり）
「共有」⇒「R6」⇒「校務分掌」⇒「校内研修」⇒「授業プランシート」
- (4) 教科会や担任会等の時間を活用して、事前に授業プランシートの内容を練り合う。
- (5) 校内研修主題や研修内容を意識した授業づくりに努める。
- (6) 下記の「授業改善のための共通実践事項」を授業プランシートに記載し確実に実践する。

授業改善のための共通実践事項

- ・生徒指導の4つのポイントの中でどこに重点をおいて授業を実施したのか確認
- ・「めあて」と正対した「まとめ」「振り返り」の実践
- ・生徒の思考を促す発問の工夫
- ・グループやペアでの練りあい等、生徒が考えや意見を共有する時間や場面の工夫

3. 公開授業の参観方法（参観者）

- (1) 準備された「授業参観シート」の観点に沿って授業を参観し記入後、授業者に提出する。
- (2) 教科内で写真係を決めて、授業の様子や使用した資料などの撮影を行い、写真データを保存する。「共有」⇒「R6」⇒「校務分掌」⇒「校内研修」⇒「写真」

4. 公開授業実施後（授業者）

- (1) 授業終了後、授業者は自己評価表を記入し、校内研修担当に提出する。
- (2) 教科主任が主導し、教科会で授業リフレクションを行う。（できるだけ管理職も）
- (3) 授業リフレクション後はそのまとめを作成し、校内研修担当へ提出する。

5. 提出する物

※年度末に市教委へ提出する校内研修集録を作成します。下記の資料の提出をお願いします。

	提出物	提出時期	提出方法	提出先
1	一人一公開 授業計画書	4月26日（金）	所定の用紙	教科主任→校内研修担当
2	指導 プランシート	当日朝までに	データ 紙で配布	共有→校務分掌→校内研修→授業プランシート 各教員机上
3	自己評価表	授業後	所定の用紙	校内研修担当
4	公開授業写真	授業後	データ	共有→校務分掌→校内研修→写真